

我部 政男 著

日本近代史のなかの沖縄



一 はじめに

周知の通り、明治維新は、封建的大名の割拠的な支配体制をうち破り、日本を近代的な民族国家として生成させていく展望をきりひらいた歴史の変革であった。

明治政権が目標としたところは、国内を統一して中央集権体制の確立をおしすすめることであった。明治政権の集権化が、最初の一〇年間に当面した重大な課題は、中央政府と地方権力との対抗であり、その対抗権闘をどのような構想にもとづいて統合していったかということである。同時に、それは中央政府内部の対立抗争をも発生させ、進行させている。

明治政権の集権化は「版籍奉還」「廃藩置県」の断行によって、より完成への道を歩むことになる。「版籍奉還」によって、諸侯は領主権を接収され、単なる一個の地方牧民官たる藩知事の地位にほうりだされる。かくして、旧来の割拠的な封建的藩は、事実上、解消・解体、あるいは打破され、中央集権体制の確立と全国的画一的な行政区画の成立をみることになるのである。

沖縄地方の場合「琉球処分」期が、ほぼその時期に相当するようと思われる。

(本書49ページより)

琉球処分以来、「後発日本」として近代の歴史を刻み始めた沖縄。

政府は、どのように琉球を沖縄にしようとしたのか。

沖縄は、どのように日本になったのか。

琉球は、どこまで琉球のままだったのか。

1945年6月、沖縄の「帝国臣民」は、どのような最期を遂げたのか。

近代沖縄の葛藤を鏡として、国民国家・近代日本の実像が明らかになる。

A5判・上製・484ページ

2021年7月刊

定価 7,700円 (本体7,000円+税10%)

ISBN 978-4-8350-8463-3

不二出版

本文より

明治維新を実現し近代国家の形成に参加したすべての人々の共同体的な一体感のともなう意識のことを総体として日本人の国民意識と称することが出来るであろう。しかし、その構成員である個々の国民の意識には、それぞれに格差や差異が存在し、思考様式、感情表現、意思表示のあり方に、相違があることは言うまでもない。空間的としての地域特性、時間としての歴史の違いが生んだものである。それから少し遅れて、その国家に新しく参入した（させられた）琉球・沖縄人は明らかに遅れてきた日本人であり、その意識の中の日本人としては、未発達、未成熟であったとしてもなら不思議ではない。……その歴史的な体験意識を引きずる行為の相違が、日本人の国民意識をめぐって、日本、沖縄の地域としての両者にそれぞれ格差を生むことになる。……

一度出来上がったその格差は、不思議なことに、常時には沈殿した状態で古層のなかで静態化し、容易には機能しがたいのである。ところが、社会の動きが非常時に転換するとこの格差意識は、精神的な緊張に触発され、大きく機能し最大値を示すことになる。そこに意識のずれとして両者間に深い溝ができる。……

沖縄地域の場合のように、急激な戦時体制への移行には、その出発の時点から軋轢・摩擦と負担が、軍と民の間隙の中に存在していた。その両者間の相互認識のずれと落差は、埋まることなく緊張した状況を持続させた。戦時行政のなかで軍の支配と住民の服従をめぐる対立の中に存在した裂け目、それは、軍民の両者にとって、容認できるものではなかった。その無自覚が、限度を超えて無限の犠牲を強いるなど、過度の協力を要求する淵源となり、強制と協力の連鎖は休むことなく動き続けることになる。したがって、軍と民の間に意識の共有が最初から最後まで完成する状況をつくることは、不可能であった。……近代の国民国家である日本国家への忠誠と服従は、戦時体制のなかでは、軍部の当然の要求であり、民の協力は肉体的には強制的であり、精神的には自発的でなければならなかった。換言すれば、強制的な戦時体制への回答は、面従腹背の世界であった。戦時における差別意識は、人間のエモーショナル行動を引き起こしエネルギーのある方向に結集させる謀略的な手段にすぎない。その具体的な実験が試みられたのが沖縄戦争であった。……

〔Ⅳ 沖縄戦争時期のスパイ（防諜・間諜）論議と軍機保護法〕より

目次より

まえがき

I 琉球から沖縄へ

II 明治初期の政府と沖縄地方
— 脱清行動と血判誓約書を中心に —

III 近代日本国家意識への対応
— 琉球・沖縄地域の場合 —

IV 沖縄戦争時期のスパイ（防諜・間諜）論議と軍機保護法

V 軍機保護法とスパイ（防諜・間諜）論議

VI 沖縄・戦中・戦後の政治社会の変容

VII 占領初期の沖縄における政軍関係

VIII 地方巡察使と尾崎三良の沖縄視察

あとがきにかえて

著者紹介

我部政男 (がべ まさお)

1939年 沖縄県本部町に生まれる
 1963年 琉球大学卒業
 1965年 東京教育大学大学院で学ぶ
 1971年 琉球大学、助教授、教授
 1991年 山梨学院大学、大学院、教授、
 (2008年退職)、名誉教授

著書

『明治国家と沖縄』 三一書房 1979年
 『近代日本と沖縄』 三一書房 1981年
 『沖縄史科学の方法』 新泉社 1988年
 『地方巡察使復命書』 上・下2冊
 三一書房 1980年
 (他)

不二出版(株) 〒112-0005 東京都文京区水道2-10-10 TEL: 03-5981-6704 FAX: 03-5981-6705

注文カード	注文日 月 日	帖合・貴店名	書名	注文数
			我部 政男 著 日本近代史のなかの沖縄	冊
		条件：注文扱・返条付	定価 7,700円 (本体7,000円+税10%) ISBN978-4-8350-8463-3 C3021	お名前
		ご担当者様	発行=不二出版	☎